

# シンポジウム

## 「世田谷版地域包括ケア10年」総括

地域共生 / 医療・介護連携 /  
地域包括ケアの地区展開の成果と課題

世田谷版地域包括ケアシステムは令和7年度に10周年を迎える。これを機に改めてこれまでの取組みを振り返り、分析を行うことで、その強みや課題を再認識し、65歳以上人口のピークを迎える2040年代に向けて「世田谷版地域包括ケアシステム」のさらなる発展を目指す。

2026年3月13日  
地域行政部/保健福祉政策部

**プログラム**

第1部 世田谷区の地域包括ケア10年の歩み

第2部 取組み発表

- 1) 地域包括ケアから地域共生社会へ
- 2) 地域包括ケアの地区展開

第3部 パネルディスカッション  
「これまでの10年とこれからの10年」

《司会》敬称略  
中村 秀一(地域保健福祉審議会会長)

《パネリスト》敬称略  
山口 潔(ふくろうクリニック等々カ・自由が丘理事長/医師)  
石綿 真人(砧まちづくりセンター所長)  
山本 健一(砧あんしんすこやかセンター管理者)  
中山 倫之(世田谷区社会福祉協議会砧地域社協事務所所長)  
清水 雅人(山野児童館長)  
保坂 展人(世田谷区長)

第4部 区長と学生による対談

# 【第1部 世田谷区の地域包括ケア10年の歩み】

2014  
(H26.4)

- **世田谷区地域保健医療福祉総合計画**  
対象を高齢者だけでなく「支援を必要とする区民」とし医療、福祉サービス、予防・健康づくり、住まい、生活支援（5つの要素）が一体的に提供される地域包括ケアシステムを目指すことを明記。

2014  
(H26.10)

- **砧地区モデル事業 開始**  
「地域包括ケアの地区展開」モデルとして砧地区で先行実施。身近な「福祉の相談窓口」の試行。

2016  
(H28)

- **全地区展開（27地区→28地区へ）**  
モデル事業の成果を経て全地区へ拡大。  
2019年には新設の二子玉川地区を含め28地区体制が確立。

2022  
(R4)

- **一体整備完了・条例制定・四者連携**  
一体化のハード整備完了（まちづくりセンター、あんしんすこやかセンター、社会福祉協議会）  
地域行政推進条例（第9条）により地区展開の機能を明記。  
児童館が連携に加わり「四者連携」体制へ。

2024  
(R6)

- **「世田谷版地域包括ケア」9要素へ拡充**  
従来の医療・介護福祉サービス等5要素に加え、  
「社会参加・就労・教育・防犯/防災」を追加し対象を全世代へ。

## 世田谷版地域包括ケアシステムの特徴

高齢者だけでなく、障害者や子育て家庭など誰もが住みなれた地域で安心して暮らし続けることができるよう、医療、介護・福祉サービス、予防・健康づくり、住まい、生活支援、就労、教育、社会参加、防犯・防災が一体的に提供されること。

## 主な成果と定着

- ①28地域での展開定着  
身近な「福祉の相談窓口※」として機能  
※まちづくりセンター、あんしんすこやかセンター、社会福祉協議会
- ②四者連携※の推進  
※まちづくりセンター、あんしんすこやかセンター、社会福祉協議会、児童館
- ③課題解決サイクルの確立  
地域課題の「可視化→共有→協働」  
四者連携による多角的なアプローチ

# 【第2部(1)地域包括ケアから地域共生社会へ】

## 🏠 医療と介護の連携 地域完結型の支援体制構築

### 成果①在宅医療体制の整備・連携強化

- ・訪問診療・訪問看護・ケアマネジャー・薬局の連携は深化
- ・在宅での「緊急時対応」および「看取り」実績の蓄積
- ・多職種によるチームケアが定着

### 成果②「顔の見える関係」の形成

地区連携医事業：各あんしんすこやかセンターで実施  
年間12回の研修・多職種事例検討会を開催  
医療職と介護職の相互理解とネットワーク化



地区連携医  
28地区  
実施



多職種連携  
年12回  
研修



在宅看取り  
増加傾向  
(R4→R6)

### 🚨 見えてきた主な課題

#### 📌 医療連携の広がりの必要性

在宅療養支援診療所等との連携は進んだが、外来中心の医師や地域基幹病院の更なる参画・連携強化が求められる。

#### 🌱 地域で支える意識の醸成

例えば、認知症高齢者の増加に伴い、専門職だけでなく地域住民の理解・協力が不可欠に。「地域で支える」意識の醸成が必要。

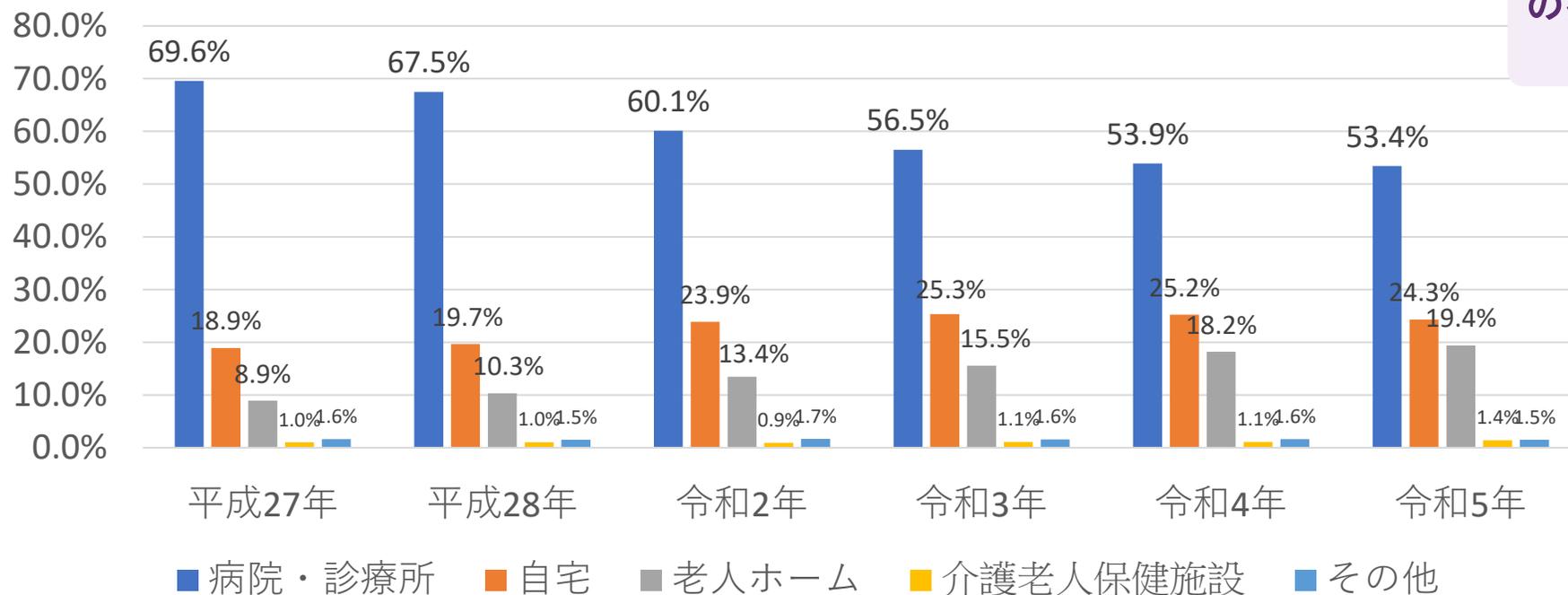


次の10年の重要テーマ

# 【第2部(1)地域包括ケアから地域共生社会へ】

## 🏠 I 医療と介護の連携 地域完結型の支援体制構築

### 死亡場所の推移

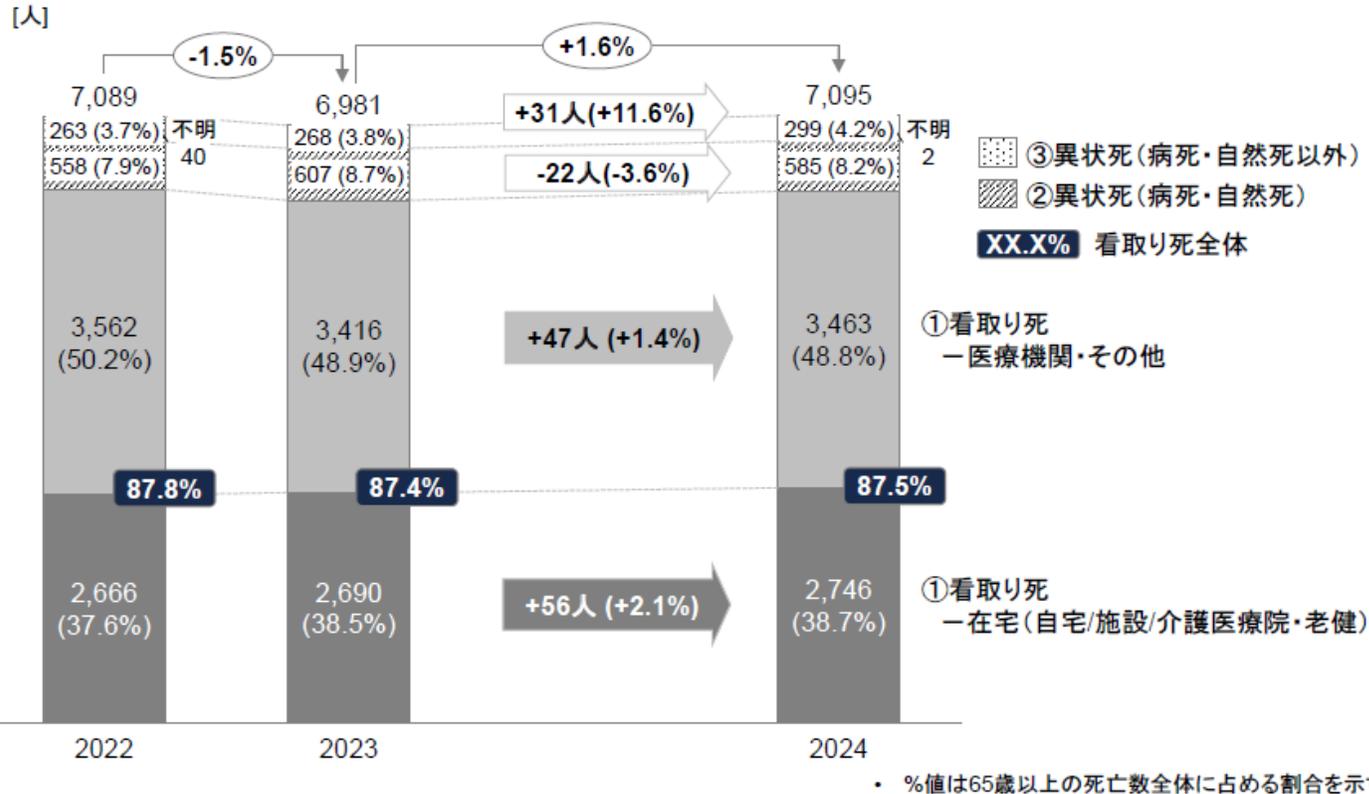


自宅や介護施設等での死亡の割合が増加

この10年間の世田谷区民の死亡場所の推移をみると、病院・診療所での死亡の割合は減少し、自宅や介護施設等での死亡の割合が増加している。特に、老人ホームでの死亡の割合が大幅に増加している。

# 【第2部(1)地域包括ケアから地域共生社会へ】

## 🏠 I 医療と介護の連携 地域完結型の支援体制構築



在宅看取り率の増加

※在宅看取りは、  
 自宅・老人ホーム・介護老人保健施設が該当する。

世田谷区では医師会との連携、地区連携医事業等の関係機関との連携強化、在宅医療・ACPの普及啓発、医療・介護資源の把握やICT活用など多面的な取組みを進め、在宅医療・在宅介護の体制を充実させ、区民のQOL向上にも寄与している。住み慣れた自宅等で最期を迎える「在宅看取り」の割合も、この3年間、増加傾向である。

# 【第2部(2)地域包括ケアの地区展開】

## 地区展開の実践（砧地区）：三者→四者連携と社会資源開発

### 四者連携の実践

児童館の参画効果：多世代交流・見守りの対象拡大、若者の地域参加（担い手育成）。まちセン・あんすこ・社協・児童館が連携し、世代を横断した地域づくりが可能に。

#### 事例

#### 大蔵住宅建替え支援「ひまわり喫茶」

高齢者単独世帯の不安を解消するため、地域の資源である学校・事業者・専門職が協働した支援モデル



### 全区への水平展開に向けた論点

-  **取り組みの標準化**  
好事例をどう形式知化し、他地域へ展開するか？
-  **活動の評価・可視化**  
定性的な成果（つながり・安心感）をどう評価し、行政が後押しするか？
-  **人材確保と育成**  
新たな担い手（若者・企業・ボランティア）を巻き込む仕組みづくり。
-  **住民参加の取り組み**  
参加のハードルを下げ、住民が主体的に関われる「入り口」の設計。

# 【第3部 パネルディスカッション 「これまでの10年とこれからの10年」】

## 登壇者

中村秀一 (司会)	世田谷区地域保健福祉審議会会長
山口潔	ふくろうクリニック等々力院長
石綿真人	砧まちづくりセンター所長
山本健一	砧あんしんすこやかセンター管理者
中山倫之	世田谷区社会福祉協議会砧地域社協事務所所長
清水雅人	山野児童館長
澁田景子	世田谷総合支所保健福祉センター保健福祉課長
田中耕太	保健福祉政策部長
保坂展人	世田谷区長

## ① これまでの10年の成果・実践

### 成果・変化

- ①在宅医療連携：「地域の在宅ケアチーム」による看取り・夜間対応の実施
- ②四者連携の定着：縦割りを解消し、相談・情報共有できる仕組みによる横連携の充実
- ③機動的対応：複雑事例への迅速対応、制度のすき間（ひきこもり等）へのアプローチ

### 具体的実践（砧地域）

- ①大蔵住宅「ひまわり喫茶」：地域資源開発と協働、住民聞き取りによる不安の可視化
- ②関係機関の参加：警察・薬剤師等の参画による支援幅の拡大
- ③居場所づくり：例えば高齢男性は目的型活動（スマホ講座等）での参加促進

## ▲ 浮き彫りになった課題

- ①複合課題の深刻化：8050/9060問題、親亡き後の支援
- ②顔の見える関係性づくり：地域での医療と介護における支援者同士のコミュニケーション、外来診療や病院医師との顔の見える関係
- ③精神障害者、医療的ケア児対応：地域生活への影響と理解不足、医療的ケア児支援
- ④多主体の巻き込み：若者・事業者・学校等を含む「地域運動」としての展開
- ⑤地域主導への転換：行政は「支える」から区民主体の地域づくりの「後押し」へ
- ⑥地区の独自性：1地区約3.2万人規模ある地区の個性ある地区づくり
- ⑦場の活用：高齢男性等の居場所づくり、空き施設・民間資源の地域開放による居場所づくり
- ⑧担い手不足：2040年問題を見据えた人材確保の限界

# 次の10年に向けた課題とキーワード

## 自 主な課題

- ①地区好事例の横展開
- ②精神障害者、医療的ケア児対応
- ③周知不足（若者・子育て・就労層等）
- ④孤独・孤立
- ⑤担い手不足・人材確保の困難

## 🔑 次の10年のキーワード



### ①地域共生社会の「実装」

支え手／受け手という二分構造を超える



②四者連携から“多者連携”へ  
医療・教育・企業・地縁団体を含めた広範なまちづくりのネットワーク



### ③住民参加の取り組み

参加のハードルを下げ、住民が主体的に関われる「入り口」の設計。



### ④若者・子育て世代の参画拡大

SNS活用や「楽しい入口」による関わりやすい仕掛け



### ⑤地区単位での地区づくりの強化

各地区の特性を活かした地区づくり



### ⑥孤立対策のテーマ化

社会との関わり薄い層の孤独・孤立対策



### ⑦居場所・資源の地域開放

学校や施設の活用と多世代交流



### ⑧制度や仕組み

個人情報共有、金銭管理、AI活用など